

(仮称) 浜田市協働のまちづくり推進条例 (案)
 に対する意見と浜田市の考え方
 (島根県立大学)

No	ご意見の概要	浜田市の考え方
1	行政と市民がお互いに補完し合えるということが、条文を読んでスッと入ってきた。連携し合うということが良いと感じた。	(意見)
2	第 10 条 情報の共有について、年代によって差が生じると思う。どうしても同じ年代同士、同じ地域同士での情報共有になってしまう。若い人と年齢の高い世代との情報共有、別の地域間の情報共有が出来る方法を考える必要がある。	情報発信の方法について、今後検討していく。
3	第 9 条 事業者及び高等教育機関との連について、何を求められるのか。	例とすれば、事業者には協賛による物資や人的な連携等を期待しており、高等教育機関には現在も行っている共同研究の成果が市政や地域に役立っており、今後もお願ひしたいと思っている。また、地域の方は若い方の意見を求めており、一緒に活動することもだが、話の場に参加していただきたいと思っている。
4	第 12 条 市民参画の方法以降、行政が独断で行うのではなく、地域の声を聴いていくということが書かれており良いと思った。	(意見)
5	第 22 条 まちづくり活動の拠点について、公民館に行ったことがなく、情報がないので何をしているかも全くわからない。わざわざホームページを見に行っって情報を取ることはしないので、ペーパーや SNS などの情報発信があれば興味があるものに参加することが出来ると感じた。大学の学内メールにアップすることが出来ればよいと思う。	情報発信の方法について、今後検討していく。
6	行政から一方的に行うのではなく、市民と一緒にいう理想的な条例だと感じた。	(意見)
7	一体的なまちづくりの醸成を図ることは、どの条文に書かれているのか。	前文のところでは記載しているが、条文では謳っていない。
8	地区によってまちづくりの優先順位はあるのか。	行政が優先順位を付けるのではなく、地域で何に重きを置くかは地域で決めることであるため、優先順位というものは特に設けていない。

以下アンケート形式による

条例を見た感想は	
1	この条例を制定することで、制定以前と比べて何をどのように変化させていきたいのかという数値目標などがあれば、より良いと感じた。
2	第4条では「市民等は、市政やまちづくりに参画する権利を有する。」と記されているが、第5条では、「市民等は、基本理念にのっとり、まちづくりの主役であることを認識しながら、地域社会に関心を持ち、自らできることを考え、積極的にまちづくりに参画するよう努めるものとする。」とあり、権利というよりは義務として位置づけられているような印象を受けた。
3	第7条では「市は、協働のまちづくりを推進するため、職員に対して研修等を実施し、その育成を図るものとする。」とあるが、職員のどのような能力を向上させることを目的としているのかをより明確にするべきだと感じた。
4	第13条で、協働のまちづくりを推進するための人材育成について記しているが、現時点ではまちづくりに関する知識や経験のない子どもや若者など、そのようにして地域の行事やまちづくりの機会に参画してもらうのかということも考える必要があると感じた。
5	協働のまちづくりを進めていく上で、市民参加を募る際にそのターゲットとなる世代やIターン者・Uターン者も参画できる内容なのかを記載することでより活動に対するイメージがしやすくなり、積極的な行動につながるのではないかと考えます。
6	市民がまちづくりを主体的に行っていくには、関わっていくことで自分たちがどんなプラスの影響があるのかを認識しておく必要があると考えます。
7	浜田市のまちづくりの拠点として公民館を利用すると書かれていた。弥栄自治区は、だいたい50キロ平方メートル内に公民館の数が一個しかない計算になる。
8	浜田市は、土地が広大で、居住地が拡散しているが、集約したまちづくりを目指しているというわけではない。
9	居住地が集約化されていないなら、無理にまちづくりの拠点を作る必要はないと考える。
10	地区まちづくり推進委員会と地域協議会との違いがよくわからなかった。
11	市民参加が最重要なポイントだと思うので、パブリックコメントやワークショップを多く実施し、住民の参加意識を高めることが必要だと思う。
12	公民館単位での市民参加を促すためには、まちづくり活動をサポートする人材を公民館ごとに配置するべきであると考えます。そのための人材育成もする必要があります。
13	全体を通して見ると、地域や市の協力体制が良かった。
14	情報量に年齢差が出る。
15	市民と行政が協力してまちづくりを推進していこうとする希望が切に感じられた。
16	市民の意見を取り入れながらまちづくりを進めていけるのがステキだと思いました。
17	行政と市民等が互いに補完しあってまちづくりを推進していくことが一目でわかる条例だった。
18	市民、事業者、行政、それぞれが案を出し合い、作り上げていっているのので、この町のまちづくりを積極的に行おうとする姿勢が伺えると感じた。

他に必要な条文、文言はありますか	
1	高齢者の方や若者、その間の世代も全員が安心安全に暮らせるようなユニバーサルデザインを取り入れたまちづくりを実践していく。
2	まちづくりを推進するために、浜田市で働いている 30～50 代の市民に、どのようなまちづくりを推進すべきなのかアンケートを行う。
まちづくりの拠点となる公民館がより使いやすく、人が集まりやすい施設にするにはどうしたらいいですか	
1	若者への周知をした方がよい気がする。
2	公民館が情報発信を積極的にする。
3	フリースペース等として開放したり、学生や在宅ワークの社会人の方が、気軽に使用できる自習室等の静かなスペースも設置する。 フリーマーケットや物々交換などの開催
4	若者が好きそうなものを販売する。
5	公民館でイベントや祭を行って、誰もが公民館に気軽に行けて楽しむことができる雰囲気を作る。
6	基本的に高齢者しか集まらず、若者はほとんど訪れないため、イベントなどを催した際に、若者に補助をしてもらうために、SNSを用いて情報発信を行う。
情報発信、情報収集するためにはどんな方法がよいと思いますか	
1	大学生などは学内メール等を利用すれば良いと思う。
2	SNS、インターネット
3	SNS、回覧板 スーパーマーケット、バス停、公共施設等への掲示
4	学校にポスターを貼ったり、学内メールを送る。
5	SNS上での意見を広報等で伝える。
6	SNSの媒体を用いる。 高校、大学の掲示板にチラシなどを掲載する。
高等教育機関が「まちづくりの推進」で出来ることは	
1	大学での研究などで関連する部分を寄与する。
2	まちづくりに関する研究をする。
3	まちづくり推進の具体案を提案 学生（若者の声）として意見交換会にも参加
4	ゼミ活動
5	地域における研究（活性化、人口減少 etc・・・）を活かす。
6	生徒や学生達にアンケートなどを実施し、浜田市に足りないものや、条文で不足していることなどの意見を書いてもらう。
若者がまちづくり活動に参加しやすくするためにどうしたらいいですか	
1	若者や高齢者などの一緒になって集まる場所が必要な気がする。
2	若者が情報を入手しやすい発信手段にする。
3	学校などの連携において学内メールにて活動参加者募集 高齢者から小学生まで誰でも気軽に参加できるようなお茶会のような雰囲気の場での意見交換会開催
4	大学を卒業したら帰る人たちは浜田のまちづくりにはあまり興味がないので、居住する人たちを増やす。
5	若者にまちづくりにどのようなものがあるのかを知ってもらう。
6	若者が主体となって行うイベントなどを催したり、学生限定のビジネスプランコンテストなどを行う。